

令和3年度 第1回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和3年6月29日（火） 午後1時30分～午後4時30分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	1人
○次 第	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ（粕谷支所長） 資料 0</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>4. 会長・副会長の選任について 資料 1</p> <p>5. 報 告</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）温海地域乗合タクシーの運行状況について 資料 2</p> <p>6. 意見交換等</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）鶴岡市過疎地域持続的発展計画について 資料 3</p> <p style="padding-left: 20px;">（2）育英奨学基金から奨学金返済支援制度への移行について 資料 4</p> <p style="padding-left: 20px;">（3）その他</p> <p>7. 閉 会</p>
4. 会長・副会長の選任について	<p>会 長 五十嵐 伊都夫 委員（温海地域自治会長会会長）</p> <p>副会長 五十嵐 正直 委員（温海町森林組合代表理事組合長）</p>
○委員発言の概要	
5. 報 告	<p>（1）温海地域乗合タクシーの運行状況について</p>
E委員	<p>・乗合タクシーの時刻表や乗降場所についての表示や周知方法は</p>
総務企画専門員	<p>・6月1日改正の時刻表は、広報つるおか6月号配布時に温海地域に全戸配布している。乗降場所の表示については、定時定路線の戸沢線と平沢線は、乗降場所に通過時刻を表示している。予約制の関川線と菅野代線は、自宅付近から乗降できるため、乗降場所表示はないが、時刻表に通過時刻を記載している。</p>
会 長	<p>・ゴールドパス（GP）を利用して乗合タクシーに乗車できるが、その場合、温海地域公共交通運営協議会の収入にならない。</p>

地域振興課長	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内交通に対しては、GPだけでなく、赤字路線への補助も行っており、乗合タクシーの運行経費も市が補助をしているため、市の財政面では同じこと。利用者の利便性を優先した仕組としているためご理解いただきたい。
6. 意見交換等	(1) 鶴岡市過疎地域持続的発展計画について
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ・温海はほとんどが山林。手入れが行き届けばまた状況も変わってくると思うが、人件費が高い。機械作業がほとんどだが、搬出も大変。林道作業道の整備が不可欠。山を見直せるような事業の検討や、林道等の整備に力を入れていただきたい。再生林の取組もあるので人材を育てていくことも大切である。
地域振興課長	<ul style="list-style-type: none"> ・林道整備については、これまでも過疎債を使いながら計画的に整備してきたものの、まだ不足と認識している。森林資源の地域内循環を実現していくうえで必要な基盤整備について、担当課と共有し検討していく。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、温海地域の農協の組合員は1,000人くらい。高齢化が進んでおり、出荷している方が20%以下。あいとサービスのガソリンスタンド2箇所については、赤字だが、組合員の生活を守るため、山間部のガソリンスタンドのみを残した。 ・過疎計画に再生可能エネルギーの記載もある。山間部は降雪量が多いが、水道光熱費は他の半分程度というようにできるとよい。 ・地域おこし協力隊については、地域の担い手不足のところに配置できないか。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり大変苦戦している。水揚量は上がっているが、魚を獲っても売れず、価格も低迷しており非常に苦戦している。消費者が増える施策、新道の駅の整備や企画は地域に合ったものとし、商品開発や加工業など小規模事業者への支援にも目を配ってほしい。
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力あるまちづくり」が大切。地元で職がなく、鶴岡に移り住む人が多い。年を取ってから不便な地域では暮らせないと止む無く市街地へ出ていく人もいる。 ・他県の例のように、学校給食は地元の食材を100%利用するのであれば、地元の農業や漁業も潤うのではないかと。大自然や地域の方々と関わり楽しむことに魅力を感じる。この地域の魅力を生かせる工夫や施策が必要。
G委員	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の市では、コロナ感染者が発生した場合、防災無線によりコロナ感染の注意喚起を行っている。鶴岡でも同じように防災無線で行うことにより、一人一

人の行動意識が高まるのではないかと。

・「デジタル技術の活用」はどのようなものに活用していくのか

企画部長

・デジタル技術の活用については、検討段階ではあるが、7月に野村総合研究所と連名で、4000名規模での住民アンケートを実施する予定。市民のニーズを調査し、市民が分かりやすい、使いやすいサービスを作っていく所存。8月に集計結果がでてくる予定で、第一弾として、現在大山地域に建設中の屋内運動場の予約について、デジタルアプリの活用を検討している。LINE（国民8千万人超が利用）を活用し、防災関係や子育て関係等、様々なサービスが展開できるように整備していきたい。年度内には、少しずつサービスを提供していきたいと考えており、広報等で周知していく。

会長

・団塊の世代など、機器に疎い人たちに対する配慮もお願いしたい。

I委員

・消防団は副業。地元人がいなければ、消防団は成り立たず地域を守ることが出来ない。消防団に新たに入る人もいない状況のため、消防団の組織の見直しをしている。

・荘内銀行がなくなり困っている。生活が不便になると地域から人が離れていく。

・中学生も生徒数の減少により、教育環境が心配され市街地へ転居するケースもある。教育や文化面で温海地域に住める環境整備が重要。

・働く場があれば地元に戻ってくると思うので、職場の確保と大学生等への情報発信に努めてほしい。

・コロナの関係で飲食できないので、地域にお金が落ちない。若者の交流の場、出会いの場もない。ワクチンの接種状況にもよるが、新しい生活様式の中で、コミュニケーションが取れる環境づくり、経済にも力を入れるような施策を検討いただきたい。

K委員

・温海地域の人口減少がこれほどまで進んでいることにショックを受けた。これまでの施策の成果、満足度の調査結果などがあれば見たい。

・乗合タクシーのアンケート回収率が低く、問題が見えづらいのではないかと。アンケート自体を見直し、次につながるようにした方がよい。PDCAをしっかりとやることで前に進めると思う。

会長

・乗合タクシーのアンケートは、全戸に依頼したが、利用者が限られているので回収率が低くなったのではないかと。

総務企画専門員

・乗合タクシーの利用者のほとんどが固定客で、路線ごとの大きな増減がない。

	<p>10月運行開始から2カ月後のアンケート実施ということで利用期間が短いことも影響していると考えます。今年12月にアンケートを実施する予定。関川、菅野代線については登録制となっているので、利用者から意見等を聞き取りし、今後のよりよい運営に反映していきたい。</p>
G委員	<ul style="list-style-type: none"> 以前は、路線バスの利用者が1～2人だったが、現在は、乗降も医院の前でできるなど利便性が良くなっており、利用者は有難いと思っている。今後も利用者の声を聞きながら、運行していければ良い。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケート内容が難しかったので、答えにくかったと思う。乗合タクシーを利用していない人は、利用しやすい時間帯や乗降場所などを聞かれてもよく分からない。利用者に絞った形でアンケート調査してはどうか。
支所長	<ul style="list-style-type: none"> 全世帯を対象としたアンケート調査は適当ではなかった。ご意見を参考に乗合タクシーの満足度調査の実施方法など検討する。
D委員	<ul style="list-style-type: none"> 見守りが必要な高齢者が年々増えている。生活の安定と福祉の施策について、具体的に教えていただきたい。
地域振興課長	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険事業を中心に、認知症対策、外出支援、健康事業など様々な事業を実施している。皆様から頂いたご意見を計画に反映し、内容の更なる充実を図っていく。
F委員	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ温海支部は、加入団体が最盛期20団体あったが、現在は10団体と会員数も減少している。コロナ禍で事業をどのように進めたらよいか検討している。
H委員	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少は人材流出、銀行が撤退したことも人口流出に拍車をかける要因になっていると思われる。 高等学校等生徒通学費支援事業は、引き続き取り組んでほしい。 観光業は、交流人口の拡大として注目されており、魅力ある「観光地を目指し、様々取り組んできた。今年は、バラ園を中心に温泉街を歩いて回れる仕掛けをしたことが、お客様に支持され、SNSで情報が拡散され、22万の「いいね」がついた。 バラ園の改修と温海温泉開湯1200年の事業の進捗状況について教えてほしい。今年、開湯1200年の年だが、まだまだ浸透していないのではないかと。
産業建設課長	<ul style="list-style-type: none"> バラ園については、7月1日のあつみ温泉魅力づくり推進委員会で、進捗状

況と今後の計画を説明する予定。2年前のワークショップでは、結構な絵が描かれていたが、それが実現できるかということになると、市全体の公園管理の中で、バラ園をどう位置付けていくのかを示せないと予算の獲得が難しい。開湯 1200 年の事業については、あつみ温泉魅力づくり推進委員会が主催団体で YUKAI を中心に企画を練っている。CM も流れているが、地元の中で共有がされていないと感じる。関係団体と話し合っていく。

H 委員

- ・市長肝いりのまちづくり未来事業の一番に示されていたが、市内部での調整を踏まえての協議と、まだまだ時間がかかるのか。バラ園も老朽化が進んでいるので、早急な対応をお願いしたい。

J 委員

- ・人口減少する理由は、働く場所がないからではないのか。市長と語る会の席上でも、あつみ温泉 IC 周辺に工業団地を形成してはどうかとの提案をさせてもらっている。
- ・婚活事業において、「つるおか婚シェルジュ」や山形県の「やまがた縁結びたい」の仲人として活動をしているが、若い女性が少ない。働く場がないため、地域から出て行って帰ってこない。そのようなことも念頭に働く場所の確保を一番に考え施策を進めてほしい。
- ・デジタル技術に関しては、酒田市の方が進んでいるように感じている (PayPay も酒田市の対応が早かった)。専門の部署をつくって、市の ICT 戦略の方向性を定めていってはどうか。

企画部長

- ・今年の 4 月からデジタル化戦略推進室を立ち上げている。PayPay はデジタル化推進の部分もあるが、コロナ禍の事業主側の非接触型サービスの推進と地域経済の活性化を目的とした取組である。今後も、担当セクションで市民の経済活動を喚起する取組を検討していく。

L 委員

- ・未来事業で保育環境整備に、保育士向けの研修が行われているが、保護者側にもその研修の内容や成果等を「見える化」してほしい。
- ・あつみ未来塾について、学校の先生と OB 教員の教え方に微妙な違いが出ているのではないか。未来塾の勉強の成果はどうだったか、実際に受講した生徒の声はどうだったか、アンケート調査を実施しているのか。

支所長

- ・保育の「見える化」については、保護者向けの報告会、研修会などを予定している。あつみ福祉会の HP にも各園の様々な取組状況を写真でお知らせしているので、園児の様子や活動が確認できる。

総務企画課長

- ・あつみ未来塾は、中学 3 年生を対象とし、R1 は試験的に 1~2 月に 5 回、R2

は9～2月に19回実施。(大雪の影響で1回中止) R1はアンケート調査し、保護者から学習習慣を身につけるためにもう少し早めの開催を希望する意見があったが、概ね良好なご意見を頂戴した。R2についてはアンケート実施の時期を逸してしまった。今年度も9月から20回開講予定である。今後は生徒や保護者ニーズも把握しながら進めていきたい。

B委員

- ・鳥獣被害対策についても中山間地域では重要な問題となっているため、力を入れてもらいたい。

地域振興課長

- ・農政課や各地域庁舎と連携し対策の強化を図っていく。

A委員

- ・道路を改良したからと言って過疎が止まるものではない。住みにくいのであれば、不安を一つずつ潰していく地域の取組への支援を進めてもらいたい。福栄地区には、店が無い、医療機関がないことから、生協の移動販売や出張診療について取り組み、現在は、移動販売車は週3回、出張診療所は月2回が定着している。集落支援員も含め、地域で住民が話し合い課題解決の取組を進めていくことのできる施策をお願いしたい。

6. 意見交換等

(2) 育英奨学基金から奨学金返済支援制度への移行について

L委員

- ・学生応募枠の年齢制限はないのか。応募の予定枠を超えた場合の審査基準はどうなるのか。応募期間が1か月では短い印象を受けるが、学生への周知方法は。

政策企画課主幹

- ・学生枠に年齢制限はない。社会人リカレント教育の方は対象外としている。52名の枠に対して、現時点で50名の応募状況だが、人数については支援金額が債務負担行為限度額の範囲内で調整することが可能である。事業の周知について、市広報、HP、食の鶴岡県外在住学生応援事業で情報提供を希望された方へ周知しており、応募状況から見て十分な周知がされていると判断している。

B委員

- ・地方の企業で優秀な人材を確保するのが難しくなっているため、若者のふるさと回帰としては大変よい取組と思う。事業を支える財源については「企業、団体からの支援」とあるが、もうすでに決まっていて、かなり金額も集まっているのか。JA等にも声を掛けてほしい。私も支援したいと思う。

政策企画課主幹

- ・企業の人材確保となる事業であると考えており、企業・団体の皆さんからご支持いただけるような準備を考えていきたい。支援金は、10年間に分けて本

<p>会 長</p>	<p>人へ支給するため、長い期間、事業を継続していけるような仕組みを作っていく。</p> <p>・ 商工会や商工会議所からも協力を得られると思う。</p>
<p>6. 意見交換等</p>	<p>(3) その他</p>
<p>会 長</p>	<p>①鼠ヶ関 IC 周辺の整備「新道の駅」について</p> <p>・ 鼠ヶ関 IC 周辺の整備としての「新道の駅」について、鼠ヶ関だけでなく、オール温海、オール鶴岡として産業振興等、地域の活性化を図っていききたい。皆さんからのお力を借りながら成功させたい。</p>
<p>説明：佐藤俊介委員</p>	<p>②鶴岡市消防団温海方面隊の組織検討委員会事業活動概要について</p>
<p>J 委員</p>	<p>・ 方面隊としても、幽霊団員を把握しているか。水害等の災害時、自治会からの依頼で消防団員は活動できないのか。</p>
<p>I 委員</p>	<p>・ 幽霊団員の正確な数字は把握していないが、今年度、来年度の活動について聞き取りする予定。団員数は減っても、やる気のある人を残し分団の改編をしていく方向。災害等で自治会から要請があった場合は、消防団活動するのは可能。活動と同時に団員から報告を貰えればよい。</p>
<p>C 委員</p>	<p>・ やりたい人だけがやるということで、消防団を維持できるのか。水難救済会は、年齢関係なくある程度固定した人数を確保している。消防団活動は、会社の理解も必要となると思う。</p>
<p>I 委員</p>	<p>・ 機能別団員という組織（現役を退いた方から災害時に出動してもらう）もある。まずは、消防団員の処遇と待遇を見直し、消防団に入りやすく、活動しやすい環境を整えることに取り組んでいる。</p>
<p>会 長</p>	<p>・ 鶴岡市全体の問題として捉え考えていかなければならないと思う。</p>